

## (中国) 過度な景気悪化懸念は払しょくされつつある

9月中旬に発表された8月の主要経済指標からは、足元の中国経済は前月から小幅ながらも改善したとみられる。具体的には、8月の小売売上総額は前月比0.31%と、7月(同▲0.02%)からプラスに転じた。また、8月の固定資産投資も同0.26%と、7月(同▲0.16%)から同じく拡大に転じるなど、景気減速に歯止めがかかった模様である。

現在実施されている自動車販売促進策などの消費押し上げ効果が出始めたほか、地方債発行・利用の加速もあり、中国の内需(消費+投資)はようやく安定化の兆しが出始めている。



こうしたなか、9月27日に発表された8月の一定規模以上の工業企業の利益も改善の動きがみられた。詳細をみると、22年入り後に大きく悪化していた工業企業利益は8月には前年比17.2%と7月(同▲6.7%)から大きく改善した。22年7~12月の間は前年比が未発表であったものの、中国国家统计局によると、23年8月は22年半ば以来のプラスとなっているという。

業種別を確認しても、自動車販売促進策の効果によって自動車が改善したほか、専用設備製造業も改善の動きが強まっている。実際、8月の鉱工業生産は前年比4.5%、前月比0.50%といずれも7月(同3.7%、同0.01%)の伸びを上回った。

とはいえ、1~8月期の工業企業利益は前年比▲11.7%と1~7月期(同▲15.5%)からはマイナス幅が縮小したもの、依然大きなマイナスであることに変わりはない。今後は、これまでの利下げや預金準備率の引き下げなどの経済対策により景気持ち直しの動きが徐々に強まるとみられるなか、工業企業利益の改善が続く可能性が高いと見込まれる。